

みんなで考える厚岸町の10年後 夢が広がるまちづくりワークショップ 結果報告書（第3回）



厚岸町

目的

平成22年度に策定された第5期厚岸町総合計画が、平成31年度をもって終期を迎えます。

総合計画とは、厚岸町が目指すべき将来像を、10年先を見据えて総合的に策定するものであり、その策定に町民の意見は欠かせません。

本ワークショップは、新たな総合計画を策定するにあたり、町民の方々のご意見を広く反映すべく開催するものです。

10年先を見据え、これからの厚岸町をよりよく発展させるべく、ワークショップで生まれた町民の方々のご意見を検討し、その中から、新たに策定する厚岸町総合計画にふさわしい意見を選考し、反映させていただきます。

第3回となる今回のワークショップでは、「自然環境、環境衛生、道路・公共交通、防犯・防災、住宅、情報ネットワーク」の分野について、意見交換を行いました。

概要

- 日 時：平成30年11月10日（土） 13：30～15：30
- 場 所：保健福祉総合センター（あみか21）1階 検診スペース
- 対 象：厚岸町民
- 主 催：厚岸町
- グループ：4グループ（計19名）
- テーマ：自然との調和を大切にした快適で安全なまち厚岸

A班

現状や実体験

情報ネットワーク

そもそも
IP端末が
必要？

IP告知の活用
がされてない

SNSの情報
発信はいい

IP告知設置
しづらい（費
用・仕組み）

道路・公共交通

道路標識不足

コンキ入口の
優先不明

夜のハイヤー
なく不便

除雪がきれい

防犯・防災

街灯が多くて
明るい

防災無線が
聞きづらい

停電時防災無線
が聞けない人が
多かった

防災無線の
屋外の数不足

理想

防犯・防災

防災モニター
による周知

住宅

空家バンク
受皿の確立
が必要

空家対策
の強化

空家案内
物件情報

道路・公共交通

大橋のフクハラ
側の横断歩道
がない

JRからくる道道
横断するため
信号機を設置

代行タクシーが
欲しい

情報ネットワーク

Wi-Fi環境整備
を推進して
ほしい

無料Wi-Fiを
もっと多くの
場所で

直売店にWi-Fi
つけて集客

町民ができること、地域・団体ができること、行政がすべきこと

情報ネットワーク

周知・徹底
色んな手段で
幅広い世代に

町民も積極的
に知りに行く

住宅

物件案内方法
の検討

危険空家の物件
数と事故防止対
策の検討

外から人を
呼んでくる

道路・公共交通

タクシーを整備・
行政と民間事業者
と協議をもうける

UVER便乗

A班のまとめ

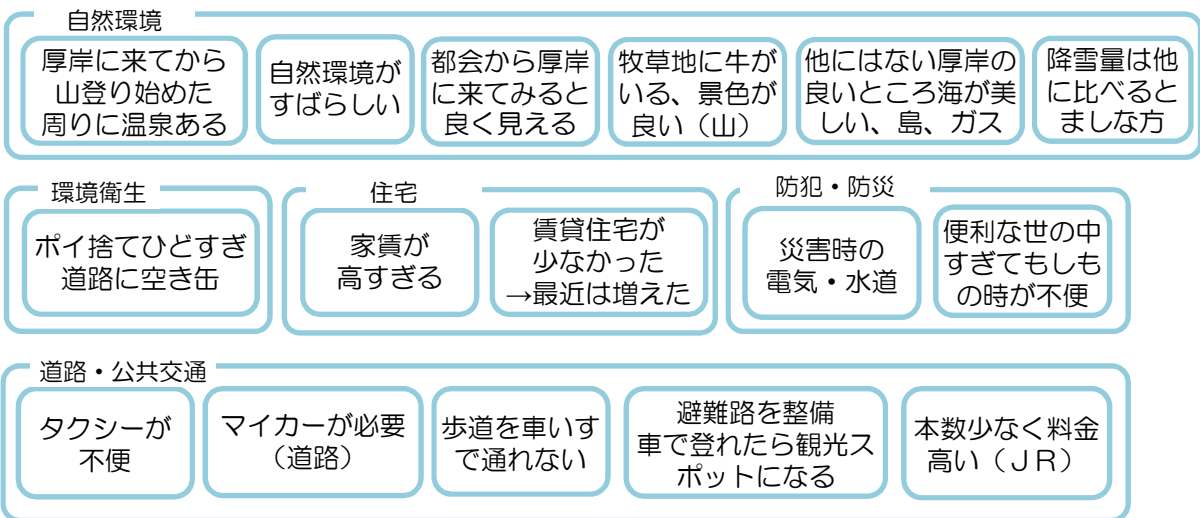
防災無線の外部スピーカーが聞き取りにくいと、どこに避難をしても状況がわかるような整備が必要だ。さらに、SNS等による災害情報の周知も積極的に活用していくべきだ。理想としては、町内に防災モニターを設置して、それを通じて災害情報を取得できると良い。

道路標識が不足していると感じられる。観光客も増加しているため、整備を進めるべきだ。また、ハイヤーやタクシーが少ないのは、これまでのWSでも指摘されているとおりである。このほか、厚岸大橋の歩行希望者もいるため、歩道や横断歩道を整備するべきだ。

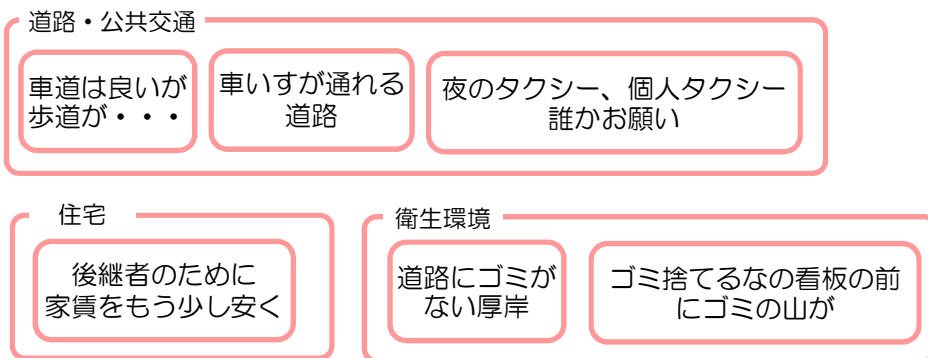
タクシーやハイヤーの不足については、行政と民間事業者が協力しながら進めていく必要がある。

B班

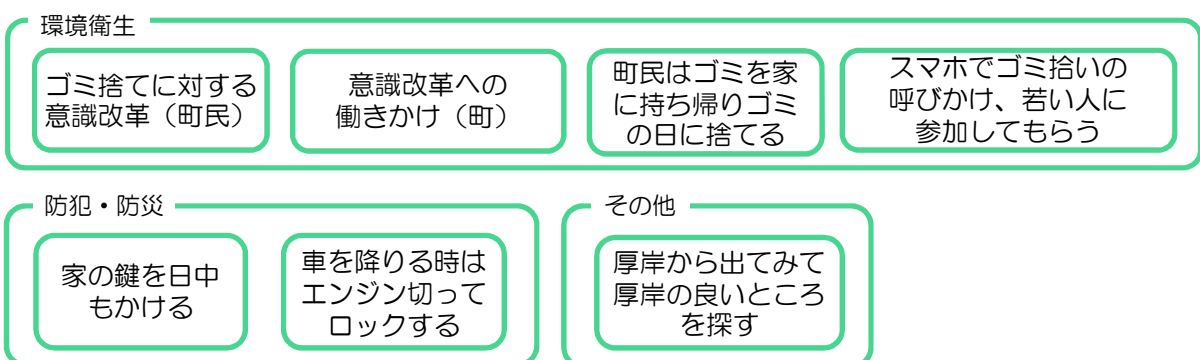
現状や実体験



理想



町民ができること、地域・団体ができること、行政がすべきこと



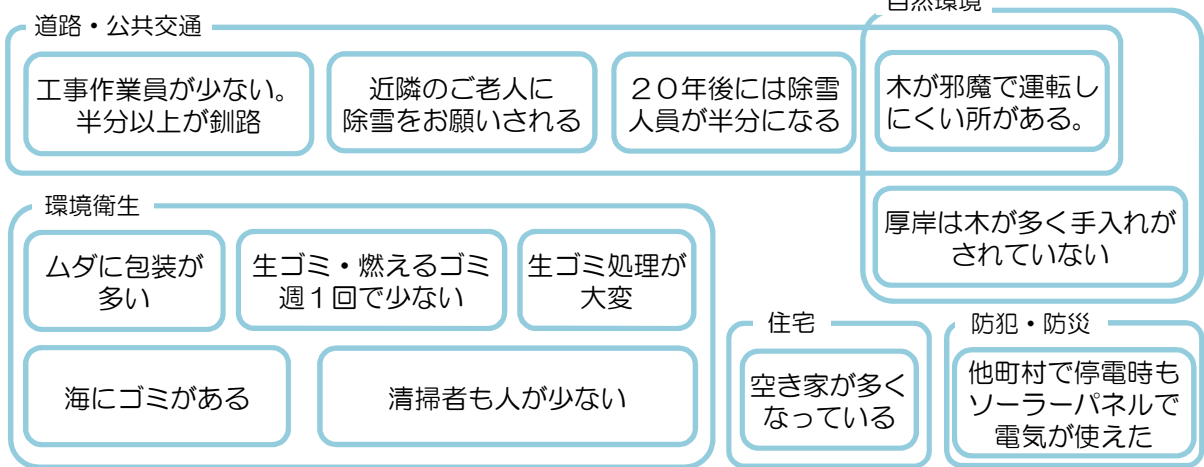
B班のまとめ

厚岸に移住して感じたこととして、海岸線が広がるなど自然環境が良い。また、町外ではあるが、アクセスの良い場所に山や温泉があることも素晴らしいと感じる。その一方で、ポイ捨てが非常に多く残念なため、町民に対して環境意識の醸成を図り、ボランティア等を通じて美しいまちづくりを進めていく必要がある。また、ボランティアを募る方法の工夫として、スマホ等を活用することで若者の参加を促せるのではないだろうか。さらに、町外から来た人がごみを捨てることに困らないよう、公共のゴミ箱が増えれば良いと感じる。

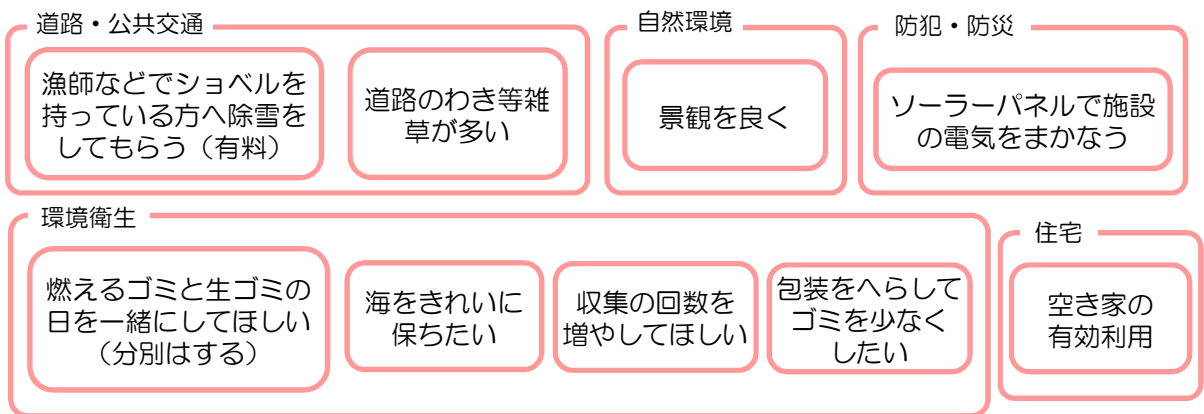
道路は、車が通る分には良いが、歩道については車椅子の利用者などに優しくないように感じる。そこで、こうした方々に配慮した歩道づくりを進めていくことが必要である。

C班

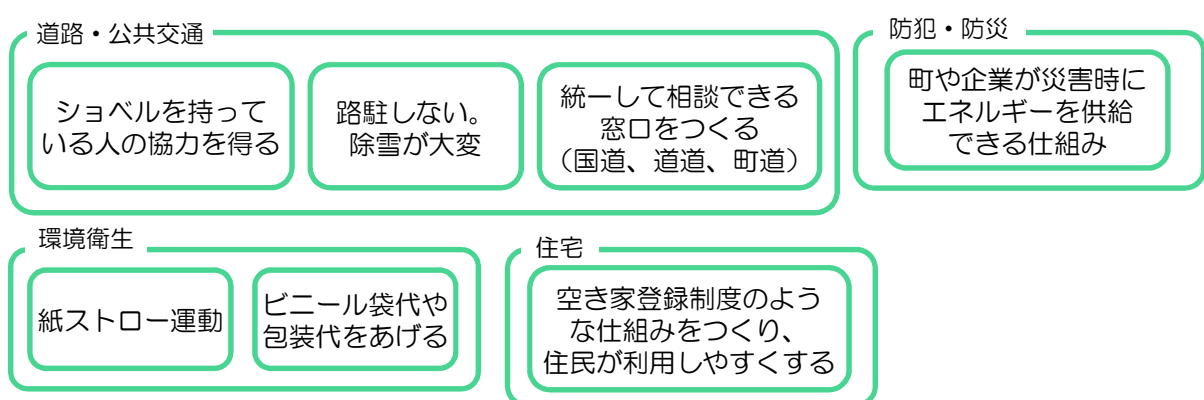
現状や実体験



理想



町民ができること、地域・団体ができること、行政がすべきこと



C班のまとめ

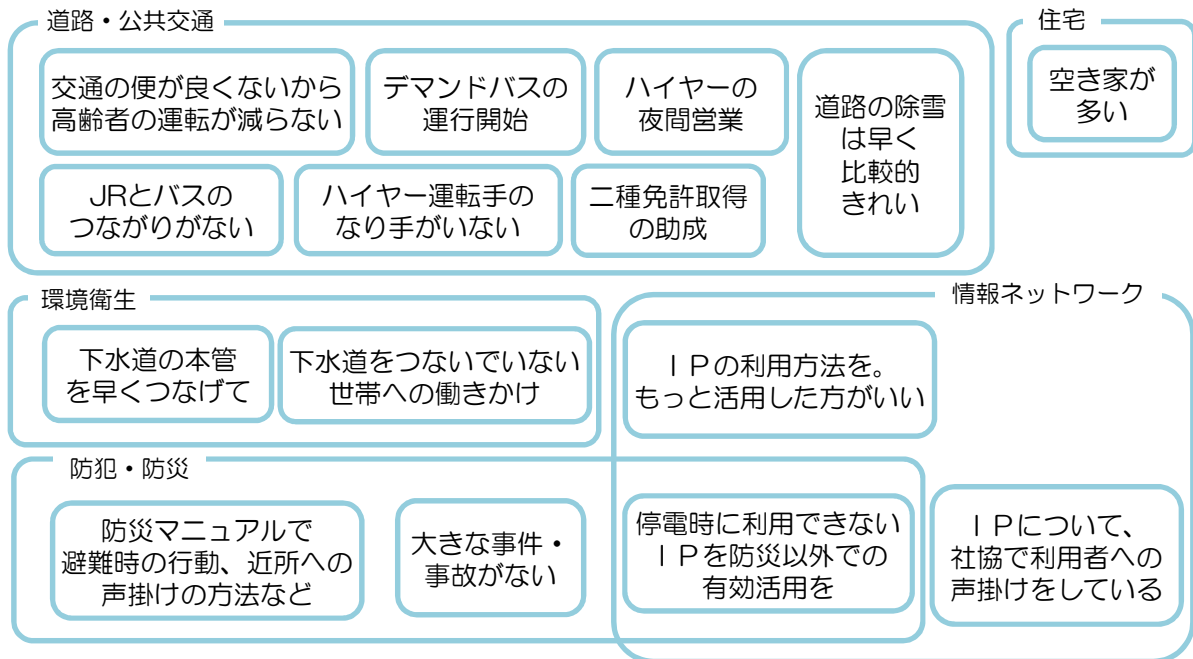
ゴミ問題として、お店で物を購入した時に無駄な包装が多いこと、生ゴミの収集が週に1回で少ないことなどが挙げられる。しかし、ゴミ収集者も高齢化が進んでいるため、収集日の増加は厳しいように感じる。そこで、ゴミ処理代金の値上げ等により、町民のゴミ分別を促してはどうだろうか。

停電時、電気が使えなくて大変だったが、建設会社には発電機があったため仕事ができていた。そこで、町にも災害時のエネルギー供給の仕組みや業者との連携体制づくりを進めてもらいたい。

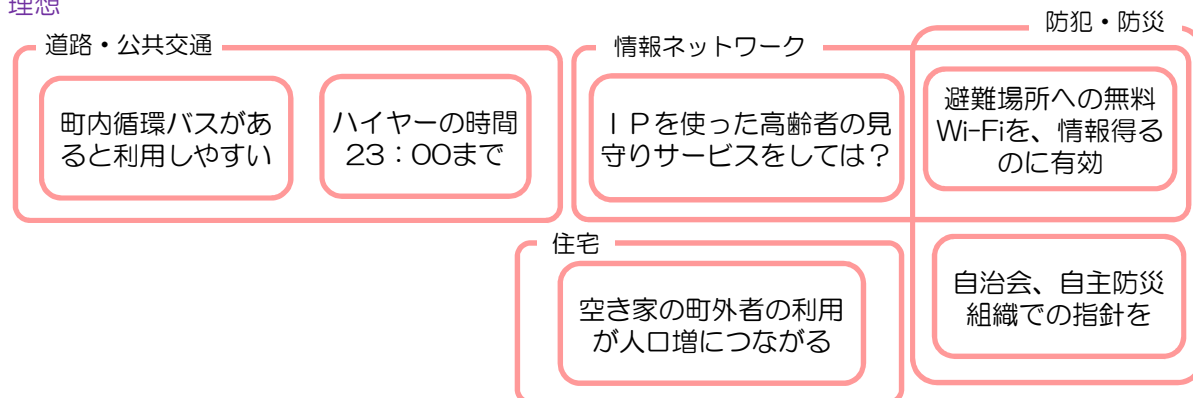
除雪をしている業者についても、高齢化や人口減少が進み、近い将来には除雪ができなくなると危惧される。こうした中で、ミニショベルを所有している漁師の方にも協力を要請することなどが要る。

D班

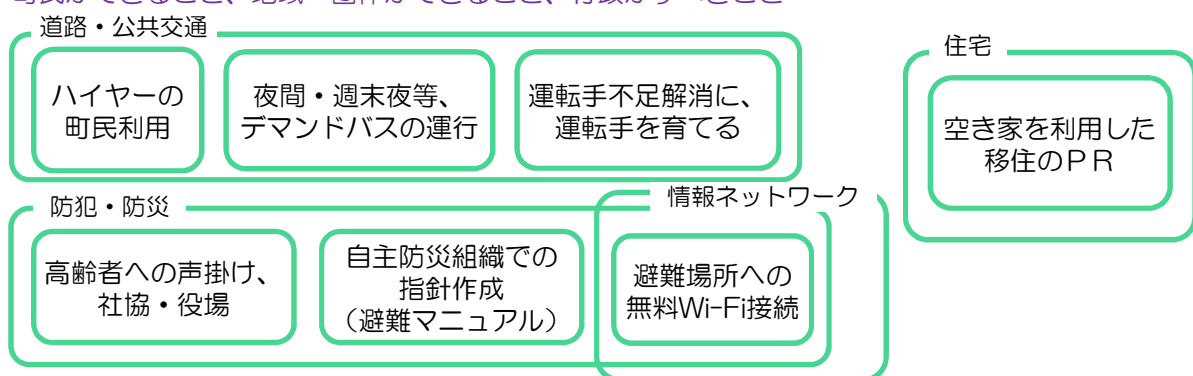
現状や実体験



理想



町民ができること、地域・団体ができること、行政がすべきこと



D班のまとめ

ハイヤーが夜間に運行していないため、不便である。タクシーやハイヤーの整備に向けて町でも取組を進めているようだが、難しい現状があるということで、デマンドバスを週末だけでも夜間に利用できるようにするなどの工夫があると良い。今後も、町と町民が一緒に、こうした問題の解決策を検討していけたら良い。

I P電話は、停電時に使用できないため、防災時以外における使用方法を積極的に検討していくことが必要だ。この一案として、高齢者の見守りサービスに生かしたら良いのではないかな。

防災については、自主防災組織の結成を推進しているが、その方針を作成し、示していくことが必要だ。空き家が増えているため、それらを活用して町外からの移住をPRすることができると良い。

第3回ワークショップのまとめ

第3回は、自然環境、環境衛生、道路・公共交通、防犯・防災、住宅、情報ネットワークについてワークショップを開催しました。自然との調和を大切にし、安全・安心で快適なまちづくりを進めていくためにも、行政だけでなく、町民や地域団体などのさまざまな主体が協力していくことが求められています。

第3回ワークショップのまとめは、以下のとおりです。

自然との共生に向けた環境意識の醸成

厚岸町の自然環境は素晴らしいという声上がる一方で、道路や海に対するゴミのポイ捨てを課題視する意見も多数上げられました。次世代に豊かな自然を残していくためにも、町民に対する環境意識の醸成を図り、美しい自然との共生を目指したまちづくりをより一層推進していくことが求められています。

こうした中で、豊かな自然環境を残していくための取組として、過剰包装を避けることや紙ストローの導入も提案として上げられており、行政・地域団体・町民がそれぞれの立場からできることを考え、実践していくことが重要です。

事前周知による安全・安心の体制づくり

北海道胆振東部地震における全域停電を経て、停電時にＩＰ電話が使えないこと、防災無線の聞き取りづらい場所があるなど、さまざまな課題が上げられました。また、災害時の行動をスムーズに実践できるよう、自主防災組織における行動指針を事前に示してほしいとの意見も上げられています。

今後は、もしもの時に困ることがないように、災害時の有効な情報伝達手段の整備や、災害時における行動指針の作成を推進し、町民に対してそれらの事前周知を積極的に図っていくことが求められています。

快適に移動できる生活環境の整備

買物・通院、レジャーや観光といった日々の生活の中で、交通手段は欠かすことができません。しかし、町の現状として、夜間ハイヤーが不足していること、歩道の整備が不十分であること、ＪＲとバスの接続についてなど、さまざまな課題が上げられました。こうした中で、週末に絞ったデマンドバスの夜間運行をしてはどうかという具体的な提案も上がっており、行政・地域団体・町民の参画・協働により、地域の交通の課題解決に向けて実現可能な方法を検討していくことが求められています。

また、除雪人員が減少しているという意見も上げられ、近い将来に発生するこうした課題を見据えて対応策を検討していくことも重要です。

みんなで考える厚岸町の10年後
夢が広がるまちづくりワークショップ
結果報告書（第3回）

発行年月：平成31年2月

発 行：厚岸町

編 集：厚岸町総合計画策定委員会（まちづくり推進課 企画調整係）

住 所：〒088-1192 厚岸郡厚岸町真栄3丁目1番地

電 話：0153-52-3131

F A X：0153-52-3138